

清瀬市郷土博物館 市民と歩んだ 40周年

開館から40年、清瀬市郷土博物館は市民とともにまちの歴史や文化を守り続けてきました。資料の収集・展示、さまざまな体験を通して、人々がふれあい学び合う拠点として歩んだ軌跡と、未来への挑戦を紹介します。

- ①地域の歴史を守り伝える郷土博物館スタッフの皆さん
- ②結核の関連資料を常設展示。清瀬の病院街の歴史を知ることができます
- ③「清瀬のうちおり」常設展示は季節によって入れ替わります



ふれあいと学びを通じて
清瀬の歴史を未来へ伝える

清瀬駅北口からケヤキロードギャラリーの彫刻群を眺めながら歩くこと約10分。自然豊かな場所に郷土博物館が開館したのは、昭和60年（1985）。当時、市内では宅地開発が進み、新たに清瀬に移り住む人々が増えていました。新たな住民は、このまちの歴史や文化を知り、古くからの住民は受け継いできた歴史や文化を伝える。世代や立場を越えて人々がふれあい、郷土への理解や愛着を深める場として誕生しました。

博物館の大きな役割は、歴史的資料の収集と保存、郷土文化や伝統行事の継承です。市内で行われるお祭りなどの伝統行事の取材や、ときには古い建物や蔵が取り壊されるという情報を耳にし、所有者の了承を得たうえで貴重な道具や文書などの資料を保全することもあります。また、学校や文化・芸術団体との連携も大切な役割のひとつです。学校の授業や社会科見学も受け入れ、子どもから高齢者までの幅広い世代が郷土の歴史や文化に直接ふられる学びの場となっています。

館内に入ると古代から近代までの清瀬の歩みをたどる常設展示室のほか、企画展を行うギャラリーがあります。

常設展示の見どころは、平成29年に国の重要有形民俗文化財に指定された

俳句や雑誌、病院で使用されていた食器などの出土品を紹介。なお、本年11月、清瀬市はこの歴史を広く世界に向けて発信し、理解を深めるとともに、後世に引き継いでいくため「清瀬結核サミット」の開催を予定しています。

開館40周年を迎えた今、東野館長は「今後は、子どもたちにもっと興味を持ってもらえるよう、最新のデジタル技術や映像などを取り入れた新たな展示手法の検討も必要です」と話します。

市民とともに歩み続け
記憶をつなぎ未来へ伝える

時代とともに変わりゆく清瀬市。しかし、

「清瀬のうちおり」です。清瀬では江戸時代から昭和初期まで、農家の副業として養蚕や機織りが盛んにおこなわれており、農家の女性たちは売り物にならない屑屑から引いた絹糸や木綿の残糸で家族のために布や着物などを織っていました。「清瀬のうちおり」は、いままでも、市民の方が大切に保存されてきたものを市に寄贈いただき、市民の方が収集・整理にご尽力いただいた貴重な資料です。現在、郷土博物館の民俗展示室において、定期的に入れ替えを行い展示されています。

また、敷地内には古民家を模した「伝承スタジオ」があり、先人の知恵や暮らしの技を体感できる場として活用されています。ここでは「染物教室」や「うどん打ち」など、地域の郷土文化を肌で感じられるイベントを定期的に行っています。

企画展の進化が示す
地域文化と新しい挑戦

年に数回行われる特別展では、学芸員がテーマを練り、約1年をかけて資料を集め、来館者が楽しみながら学べる展



清瀬市郷土博物館
☎ 042-493-8585
📍 清瀬市上清戸2-6-41
🕒 9:00～17:00／月曜休館

この地に育まれてきた歴史や文化は変わらず、博物館を通じて次の世代へと受け継がれています。40年の歩みの中で、多くの市民が展示づくりやイベント運営に関わり、まちの記憶を共有してきました。近年では市民ボランティアの活動も広がりを見せています。

郷土博物館は、資料を保存・展示するだけの施設ではなく、人と人をつなぎ、地域の文化を育むコミュニティの場であり、本市のシティプロモーションの拠点です。これからも清瀬の歴史や文化の魅力を発信するとともに「まちの記憶」を紡ぎ続け、次の世代へと引き継いでいきます。

話題を呼んだ、ヒット企画展 BEST 3

郷土博物館の歴史を彩った数々の企画展。その中から、多くの来場者を魅了した話題となった3つをピックアップ。当時の熱気とともに振り返ります。

入場者数
約14,000人

2024年6月～9月

清瀬駅100年の物語
～駅とともに歩んだまち清瀬～

清瀬駅開業100周年を記念した企画展。懐かしい写真のほか、西武鉄道の協力のもとレッドアローの実車カットボディなども登場しました。



入場者数
4,187人

2023年1月～3月

歩く、描く
谷口ジローと清瀬

清瀬ゆかりの漫画家谷口ジローの世界を紹介した展覧会。清瀬を中心とする地域をモデルとした原画を展示しました。



入場者数
737人

2018年8月～9月

清瀬の富士講
—清瀬から富士を目指した人々—

富士山を崇拝する人々に組織された「富士講」。全国的に衰退しつつある中、現存する中里の富士講に焦点を当てました。口コミで評価され、図録が完売、再販しました。



・企画展・

列車での食文化ストーリー ～想いを紡いでいく～

駅弁や車内販売、ビュッフェや寝台列車の食堂車から、西武鉄道のレストラン列車「52席の至福」まで——。列車の中で味わう食事は、旅の記憶と重なり、ひととき特別なものです。そんな時代とともに変化してきた「列車での食文化」に焦点を当てた企画展です。



今回、小田急ロマンスカーの代名詞である『走る喫茶室』の伝統の継承を目指す「ロマンスカーミュージアム」と鉄道文化財として歴史的価値が高い寝台列車『夢空間』の伝統の復活に挑む清瀬市が、その歴史を改めて振り返るとともに、『夢空間復活プロジェクト』クラウドファンディングのPRも行います。

▶ 2025年10月11日(土)～26日(日)
清瀬市郷土博物館

▶ 2025年10月30日(木)～11月10日(月)
ロマンスカーミュージアム (神奈川県海老名市)

※10/19 きよせ市民まつり2025にロマンスカーミュージアムが参加